

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月11日現在

機関番号：33912  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2009～2011  
 課題番号：21520645  
 研究課題名（和文）小学校英語教育における評価基準の構築の研究：ヨーロッパ共通参照枠を基にして  
 研究課題名（英文）On the construction of evaluation criteria for English Teaching in elementary schools: with reference to CEFR  
 研究代表者  
 柳 善和（YANAGI YOSHIKAZU）  
 名古屋学院大学・外国語学部・教授  
 研究者番号：40220181

## 研究成果の概要（和文）：

小学校英語教育における評価基準の構築に関連して、まず、文字指導について CEFR の記述文をもとにした評価規準を作成し、児童に実施した文字の読み書きについてのアンケート調査の結果と比較検討した。また、実際にこれらの評価基準に則って担任教師が筆記テストを作成し、その採点結果を論じた。一方、評価の問題も含めて教員養成における理論と実践の融合について論じ、さらに小学校英語教育全般にわたる図書を出版した。

## 研究成果の概要（英文）：

For the construction of evaluation criteria for English teaching in elementary schools, we constructed the evaluation criteria for literacy teaching based on descriptors of CEFR and administered a questionnaire of literacy for English to elementary school students. The results were discussed with the criteria mentioned above. We also asked elementary school teachers to make written tests of English and administered them to their students, results are discussed in detail. In addition, the fusion of theory and practice including the problem of evaluation are discussed, and we have published a book which covers the comprehensive area of English teaching in elementary schools.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
21年度	2,500,000	750,000	3,250,000
22年度	500,000	150,000	650,000
23年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：

キーワード：評価論、小学校英語教育、ヨーロッパ共通参照枠

## 1. 研究開始当初の背景

小学校英語教育は2010年度から「外国語活動」として5学年及び6学年で週各1時間が必修とされ、全国一斉に開始された。この研究を開始した2009年度はその前年にあたり、「英語活動」として必修化に向けた準備

が進められている時期であった。

一方、外国語教育の評価規準としてCEFR(Common European Framework of Reference、ヨーロッパ共通参照枠)が注目を集めており、これはヨーロッパ諸国の外国語教育が共通の評価規準を作成し、それに合

わせて様々なテスト、教科書などを用意しようという画期的なものであった。これに合わせて日本でも学校教育における評価規準を世界各国と共通化して利便性を図り、外国語教育の効率向上を目指す動きも見られ、これは CEFR-Japan として発表されている。しかしながら、CEFR の長所は十分に理解されていたものの、CEFR は外国語能力を極めて幅広く扱うことから、特に初級レベルの評価規準の記述の区分けが粗く、そのまま日本の学校教育に於ける外国語教育としては使いにくいということが当初から言われていた。特にその中でも小学校英語教育に於ける評価規準は、小学校学習指導要領が言語項目などの具体的な外国語能力を明示しなかったこともあって曖昧なままであり、評価規準のあり方が論じられていた。

また同時に長中期的な将来には小学校英語教育の教科化や導入の低学年化も視野に入れた研究が必要であり、その際に何をどこまで教えるのかを共通の評価規準で議論することが必要とされてきた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、小学校英語教育における学習者（児童）の英語能力をどのように記述するかを探ることである。網羅的な記述方法を確立することは、さらに長期的な課題であるにせよ、前述の問題点と同様に、初級部分(Aレベル)のさらに詳細は記述がなくては実践を進める上で支障がある。この問題に加えて、第2に、言語能力の記述に当たって、小学校英語教育の実践に即したのものとして記述する必要がある。その点では、この CEFR は1つのモデルとして、たいへん魅力あるプロジェクトである。一方で、小学校英語教育でも活用するためには、小学校英語教育で実際に行われる指導に即して記述することによって一層興味深いものになるであろう。

## 3. 研究の方法

(1)CEFR の学校現場における実際の運用状況を視察するためにフィンランド、フランス、イギリスに主張した。またアジアにおける英語教育の実際を視察するためにシンガポールに出張した。いずれの地域でも現地の小学校、中学校を視察し実際の授業の参観を行い、担当教員と意見交換をした。シンガポールでは日本人学校における英語教育の実態を視察した。

(2)日本の小学校での評価規準のあり方を考えるきっかけとして、まず第一に文字指導を取り上げた。これは小学校と中学校の英語教育の連携を考える上で、今後重要な問題となることが予想されるからである。理論的な研究として CEFR の A レベルに見られる「読み」「書き」の能力の記述文を取り出し、発達段

階で分類した。同時に質問紙法によって児童の「読み」「書き」に関する興味関心を調査した。

(3)評価規準を作成後に、英語以外の教科のように、小学校の教員が実際に自分たちで筆記試験が作成できるのかどうかを考察するために、実際に教員に依頼して筆記試験を作成してもらい、それを担当児童に対して実施した。このことによって、将来、評価規準の達成度をどのようにして評価するかという問題を解決することができる。

(4)今回の評価規準の問題を含めて小学校英語教育全般にわたる見取り図を作成し、将来の課題を考察する上で、小学校英語教育全般について記述した図書を作成し、その中で評価規準の位置づけを論じた。

## 4. 研究成果

(1)シンガポール日本人学校小学部の英語教育の取り組みの中で語彙指導とその評価に焦点を当てて第41回中部地区英語教育学会で発表し、「中学校英語教育へ繋げるための外国語活動における語彙指導—シンガポール日本人学校の英語教育から—」として『中部地区英語教育学会紀要』第40号に掲載された。この中では英語が第2言語として使われている地域で暮らす日本人の児童が、その環境を生かしてどのような語彙学習を行っているかなどシンガポール独特の問題を取り上げ、日本の小学校英語教育に与える示唆を論じている。

(2)フィンランド、オランダ、フランスをはじめとする地域での小学校、中学校の授業参観及び担当教員、管理職との面談、意見交換については随時学会、研究会等で発表した。特にヨーロッパの中でも、フィンランド、オランダなど英語を中心とする外国語教育が熱心に行われている地域では、教科書を購入するなど CEFR が具体的にどのように生かされているかについて研究するための資料を収集することができた。

(3)小学校英語教育における評価基準の構築に関連して、文字指導について CEFR の記述文をもとにした評価規準を作成し、小学生に実施した文字の読み書きについてのアンケート調査の結果と比較検討した結果を第10回小学校英語教育学会(北海道工業大学)で発表し、「文字指導における小学校外国語活動と中学校英語教育の連携について—CEFRをもとにした考え方による—」として『愛知教育大学外国語研究』第44号に掲載した。

この中では、英語教育が熱心に行われている小学校の児童が、小学校で扱われている「聞く」「話す」活動ばかりでなく「読み」「書き」活動にも興味関心を持っていること、一方で、「読み」「書き」の活動を実際に塾などで経験している児童の中には、単に楽しい経

験としての英語学習ではなく、勉強としての英語学習を通して英語への好き嫌いの感情が芽生え、学力差が生じていることから、一面的に「読み」「書き」の興味関心が高まるばかりではないことを示され、今後の小学校英語教育の進め方に議論の余地を残しているとした。

(4)担任教師による筆記テスト作成の可能性及びそのテストの有効性について、愛知県の小学校の協力の下に、実際のテストを作成して児童に対して実施し、その結果について考察するという研究を、第36回全国英語教育学会(関西大学)で発表した。この中では、小学校と中学校の評価規準の整合性が現段階では取れていないこと、また将来的に小学校と中学校の英語教育を連携させるためには、技能の面にも配慮した英語教育を小学校でも実践する必要などを述べ、筆記テストの可能性を研究する意義を論じた。実際に実施されたテストにおける児童の得点の分布を検証し、将来的には担任教師が他の教科と同様に筆記テストを作成することは可能ではないかと論じている。この研究は、「担任教師主導の小学校英語教育におけるテストの作成について」として論文にし、『愛知教育大学外国語研究』第44号に掲載された。

このテストは小学校で当時広く使用されていた『英語ノート』及び実際の授業実践の内容をほぼ忠実に反映したものであり、制作にあたった小学校教員の能力高さも感じられたが、発表に際しては現段階で筆記試験の実施を疑問視する意見も出て、今後の展開について興味深い観点を提供している。

(5)教員養成の観点からも評価の問題を含めて考察を進め「外国語活動教員養成一質的向上を目的とした大学での理論と教育現場の実践の融合」と題する論文として『英語展望』第119号に掲載された。この中では評価規準の研究が、実際の小学校の現場の実践とどのように関連して進められるべきかなど、理論と実践の関係について言及している。

(6)評価論を中心にして2009年度から研究を重ねてきたが、2011年度にはその研究を発展させる形で、高橋・柳(編著)による『新しい小学校英語科教育法』(協同出版)を出版した。この本は、小学校英語教育全般にわたって執筆者を依頼し、高橋・柳が編著者として関わったもので、小学校英語教育の今後の展開について幅広く議論を進めている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

①高橋美由紀・柳善和、韓国の小学校英語教育の現状：教材を中心に(新課程の移行期間に見る)、愛知教育大学外国語研究、査読無、

45、2012、1-19

②高橋美由紀、中学校英語教育へ繋げるための外国語活動における語彙指導—シンガポール日本人学校の英語教育から—、中部地区英語教育学会紀要、査読、40、2011、183-190。

③高橋美由紀、外国語活動教員養成一質的向上を目的とした大学での理論と教育現場の実践の融合、英語展望、査読無、119、2011、18-25。

④高橋美由紀、フィンランドの小学校の英語教育と教員養成について、英語教育実践の記録：近隣小中学校での観察実習、査読無、2011、31-42。

⑤高橋美由紀・柳善和、文字指導における小学校外国語活動と中学校英語教育の連携について—CEFRを基にした考え方による—、愛知教育大学外国語研究、査読無、44、2011、1-14。

⑥高橋美由紀・柳善和、担任教師主導の小学校英語教育におけるテストの作成について、愛知教育大学外国語研究、査読無、44、2011、15-30。

⑦寺尾裕子、鈴木正敏、名須川智子、高橋美由紀、幼稚園での英語活動の試みによる園児の学びと教員の学び—保護者と教員への調査に基づいて、学校教育研究(兵庫教育大学学校教育センター)、査読有、22、2010、1-22。

⑧高橋美由紀、大学の教員養成課程では、外国語活動についてどんな取組がなされているのですか？英語教育(大修館書店)、査読無、58、2009、22-23。

〔学会発表〕(計15件)

①高橋美由紀、小中連携の英語教育を目指した小学校外国語活動における評価のあり方、第37回全国英語教育学会山形大会、2011年8月21日、山形大学。

②高橋美由紀・柳善和、中学校へ繋げるために、『評価基準』を意識した文字指導のあり方、第11回小学校英語教育学会(JES)大阪大会、2011年7月18日、大阪教育大学。

③柳善和・高橋美由紀、小中英語教育の連携における中学校英語教育の取組について：シンガポール日本人学校中学部の実践を基にして、第41回中部地区英語教育学会福井大会、2011年6月26日、福井大学。

④高橋美由紀・柳善和、小中英語教育の連携における中学校英語教育の取組について：シンガポール日本人学校小学部の実践を基にして、第41回中部地区英語教育学会福井大会、2011年6月26日、福井大学。

⑤高橋美由紀、外国語活動から英語教育へ—フィンランドの小中外国語教育の事例研究から、愛知教育大学小中英語支援室主催教員研修会、2010年12月27日、愛知教育大学。

⑥高橋美由紀・柳善和、小学校英語教育における文字指導とその評価、小学校英語教育

「効果的な英語教育シンポジウム」、2011年2月11日、神田外国語学院。

⑦高橋美由紀、外国語活動における文字指導－オーストラリアの日本語教育とS小学校の事例から、第36回全国英語教育学会、2010年8月8日、関西大学。

⑧柳善和・高橋美由紀、担任教師主導の小学校英語教育におけるテストとCan-do-listの作成について－共通評価基準の構築を目指して、第36回全国英語教育学会、2010年8月8日、関西大学

⑨高橋美由紀・柳善和、中学校英語教育へ連携させるための小学校外国語活動の文字指導と評価の実際－CEFRを活用して、第10回小学校英語教育学会、2010年7月19日、北海道工業大学。

⑩柳善和・高橋美由紀、文字指導における小中英語教育の連携について：CEFRを基にした考え方、第10回小学校英語教育学会、2010年7月19日、北海道工業大学。

⑪高橋美由紀・柳善和、シンガポールにおける英語教育、外国語教育メディア学会中部支部小学校英語教育研究部会例会・小学校英語教育学会愛知支部例会、2010年3月22日、名古屋学院大学。

⑫高橋美由紀・柳善和、フィンランド・オランダの英語教育：小学校などの授業参観報告、外国語教育メディア学会中部支部小学校英語教育研究部会例会・小学校英語教育学会愛知支部例会、2009年10月11日、名古屋学院大学。

⑬高橋美由紀、小学校英語教育における教員研修の役割、第49回外国語教育メディア学会全国大会、2009年8月6日、流通科学大学。

⑭高橋美由紀、柳善和、他3名、『英語ノート』を踏まえた多様な小学校外国語活動、第39回中部地区英語教育学会、2009年6月27日、常葉学園大学。

⑮柳善和・高橋美由紀、小学校英語の評価について－ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)に基づいた評価基準の研究、外国語教育メディア学会中部支部小学校英語教育部会例会、2009年6月21日、名古屋学院大学。

〔図書〕(計1件)

①高橋美由紀、柳善和、協同出版、新しい英語科教育法、2011、272。

〔その他〕

ホームページ：

<http://www.maruron-ac.net/ngu-u/public/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

柳善和 (YANAGI YOSHIKAZU)

名古屋学院大学・外国語学部・教授

研究者番号：40220181

### (2) 研究分担者

高橋美由紀 (TAKAHASHI MIYUKI)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30301617